

オンライン授業始める

昨年度開校した、国内初の公設民営の中高一貫教育校、大阪市立水都国際中学校・高校(佐藤裕幸校長、生徒320人)は、学校休業期間中に生徒に学習機会を与え、再開後の負担を軽減しようと4月17日から同校教員によるオンライン授業を開始した。民間企業が提供する複数のオンラインサービスを活用し、映像やインターネット上の共有画面などを通して、教員と生徒、生徒同士のやりとりを重視している。

教員2人と生徒たちで自己

紹介をし合う時間をつくっている。新学期になってからは、オンライン上の画面を教員や同級生に直接会っていない生徒たちを安心させる、教員が生徒の様子を確認するために取り入れている。例

生徒とのやりとり重視

話し合い活動では「付箋」で考え共有

例えば中学2年の国語では、一つの事柄に対する意見文を書くための話し合い活動で活用。画面上に賛成と反対の枠を作り、生徒たちの意見を付箋のようにして当てはまる枠に分けてまとめ、考えを共有した。他にも、生徒を幾つかのグループに分けてチャットでの話し合いに取り組みさせたり、アンケート機能など

全て録画し振り返りに

授業は全て録画しており、リアルタイムで参加できなかった生徒は、後から見返すことができる。録画については美鳥佳介教頭は、「生徒は時間を選ばず好きなタイミングで授業を受けられる。授業中の発言がチャットや共有の画面上に文字として残るため、授業の振り返りにも活用できる」と言う。

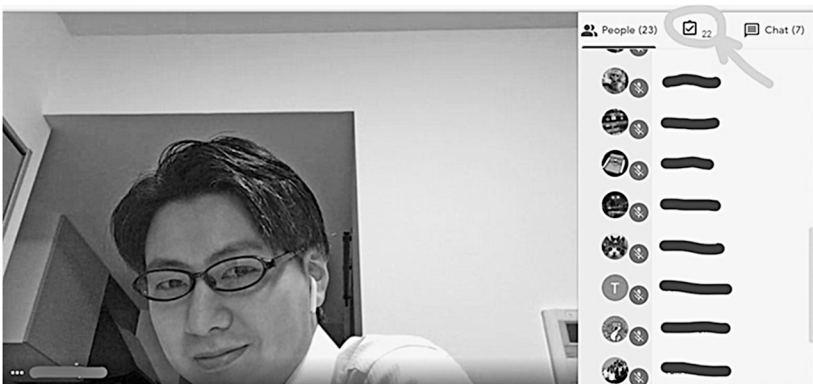
同校を指定管理法人として運営するのは、(学)大阪YMCA。

以前から中学生が申請すれば、長期休業期間中などにノートパソコンを貸し出せる制度を設けており、生徒が自宅でも学習できるようにしている。こうした環境を生かして4月17日から授業をスタート。毎日、ホームルームと3時間分の授業を実施している。

複数サービス使い分け

オンライン授業で活用しているのは、Google Meet

オンライ授業の事前準備として、同校のICT担当と情報科担当の教員が校内研修を実施。教育機関向けのインターネットツールの活用の仕方、課題や評価の作成などについて、全教員に指導した。同時に独自の教職員専用のウェブサイトを開設し、オンライン授



授業をリアルタイムで配信する教員。生徒は右側にアイコンで表示されている(画像は高校のもの)



Google Jamboardを活用した授業例

オンライン授業の課題としては、生徒一人一人の顔色や表情、声などを観察しているが調子を全て把握できるわけではないことや、コミュニケーションにやりづらさを感じている教員もいることなどを指摘した。授業中に生徒の集中力を途切れさせない工夫も、対面の授業以上に必要だ。ICT機器などの操作について相談できる部署や人員の確保も重要としている。

通常授業が再開した後もオンライン上での話し合い活動などは授業に取り入れていき、直接対面とオンラインのそれぞれの強みを生かして活用していきたいと考えている。